

2019年度 認知症対応型通所介護事業所 みぎわホーム

運 営 推 進 会 議

開催日時 2019年10月22日(火) 午後1時30分～午後2時30分

開催場所 みぎわホーム 2F 会議室

1、開会 挨拶 副施設長 中村勝美

2、構成員の紹介

3、議題

(1) 活動報告

(2) ミス・トラブル・苦情・事故報告

(3) ディスカッション

テーマ「地域との関わり方～地域密着型としてできる事～」

(4) その他、ご意見ならびに要望・助言

4、閉会 挨拶 通所介護事業所 管理者 小林弘典

【活動報告について】

陽だまりで行っていた夕食サービスについて、6月いっぱい終了する事となった。理由としては職員の人員不足が続いており、これ以上のサービス提供が困難であると判断した結果となっている。

その分、日中のサービスの充実、個別対応を必要としている方が多くいる為、利用者一人一人に合ったケアに力を注ぐ事に取り組んでいるところである。

例として、夕食サービスをご利用頂いていたご利用者と一緒に夕飯のお弁当を購入しにスーパーへ行っており、機能訓練の一環としても行っている。

補足:職員の足りない状況が続いている。利用者家族の介護負担を軽減するために始めた事だが、職員一人当たりの残業時間が増えてしまった事、またサービスを中止するにあたり2か月前からご家族に報告をし了承を得られた。

【ミス・トラブル・苦情・事故報告について】

I様(知見を有する者)

事故とヒヤリの差がわかりづらく、分けるには難しい所でもある。(異食は事故でもあるがヒヤリでもあるなど)。

改善点など、個々の方々に職員は寄り添っていかなくてはという所が込められている。そう言う事はあってはならない事だが、“なくそう”という改善策がしっかりと書かれており、さらに頑張っていただきたいと思いながら読ませて頂いた。

8月のヒヤリについて、朝のご利用者迎え途中で職員がご利用者が一人で歩いて居る所を発見、本来ならば送迎に行き連れてくる方だったのか。

どのようにご家族はご本人をみているのか。

<事業所より>

認知症対応型デイサービス(陽だまり)をご利用されている方ではあるが、その日はデイサービス(陽だまり)をご利用の日ではなく、他の事業所の利用日だった。送迎に出発しようとした所、ご利用者を発見し、声を掛け、一度みぎわホームに来て頂いた。その後、本来行く予定の事業所に連絡をし、その事業所の職員が迎えに来られた。このご利用者に関しては陽だまり以外に2つの事業所(デイサービス)を利用しており、全事業所で8:30頃に迎えに行く対応をしているが、それよりも前に外に出てしまったと

思われる。その後も、迎えに行くとご本人がいないという事はある。

K 様(家族会代表)

ご家族はどうしているのか。ご本人が鍵をかけて外出しているのか。

家族は送り出しをしてくれているのか。

<事業所より>

ご自身で鍵を閉めて出ていくという事はないと思われる。

私達が迎えに行った際、ご家族はご本人がご自宅にいる時は送り出しをしてくれているが、おそらくご家族が起きる前に外に出てしまう、迎えに来る時間なのに来ないという事で外に出ているわけではなく、家の中での些細な出来事等がきっかけとなり、出てしまっている可能性が考えられる。

この状況をケアマネージャーにも報告している。ご家族と同居もされているが、家庭環境も色々ある中での事なので、細かい所まではお答えできない部分がある。

I 様(知見を有する者)

週7回他の事業所とも繋がっているだけ良いと思う。

改善策について、気持ちのゆとりを持って対応を行う それぞれ持ち物も薬も違い大変だとは思。頑張ってもらいたい。

K 様(家族会代表)

ヒヤリについて。現在ボランティアでデイサービスに来ているが、ボランティアを行う場所が窓ガラスの近くであり、狭い場所にご利用者もいる。現在は今までよりも少しは改善されたが、やはりまだ場所も狭く、万が一地震や災害が起きた際にご利用者を連れ出すのは不可能と思われる。空いているテーブルもある為、一人一人が余裕を持って通れる、もう少し広い場所で活動を行いたい。何かあってからでは遅い。また、見ている限り、フロア中央の席はいつも空いているように見える。

<事業所より>

晴れるやの座席は曜日によって席の固定があり、名札も置いてある為“ここは自分の席”、“自分の居場所”と思われている方もいる。例えばボランティアさんや他のご利用者が席を使用している場合でも、もともと座られていた方が戻ってくると「どいて」と言われ、席の移動をお願いしなければならない事もあり、また、断りなく座っている事に腹を立てる方もいる。しかし、防災の観点からも現段階の活動場所については考えなければならぬ為、今後改善していきたい。

T様(地域住民代表)

忘れ物の件数が非常に多い。お持ちになられた物、持ち帰る物の確認は行われているのか。

<事業所より>

私自身、今回の資料を作りながら凄く多いと感じた部分である。

朝の迎えの際に、そのご利用者が身に着けているもの、例えば帽子や時計、杖など、添乗している職員が確認をしている。また薬に関しても車の中で昼食時に服用する薬が入っているかの確認も行っている。言い訳になってしまうが、新しく職員が入職し、まだ覚えきれない部分もあり、それをフォローする為にもドライバー職員と連携し声を掛け合っている。また、帰りの際の持ち物の確認も、職員間で声を掛け合い行っている。一時期忘れ物がとても多かったが、それぞれ職員が意識し声を掛け合う事で、現在は減り改善されている。また、陽だまりフロアや忘れ物が多い手洗い場など、帰る前に再度確認を行っている。

<事業所より>

何を言っても言い訳にしかならないが、事故やヒヤリなど確かに見る人が少ないからというのも一つの理由だが、人が少ないから転倒したという事だけではない。意識を向ける先や、事故が起きる時には必ず根拠と理由がある為、グループで話し合い、今後も改善策を考えていかなければならない。また、気軽に声を掛けられるよう、職員間でのコミュニケーションも図っていかなければならない。

I様(知見を有する者)

連携と取るためにも職員間でのコミュニケーションは非常に大事だと思う。

I様(家族会代表)

些細な事まで気を使って頂くのは嬉しいが、お願いしている側から見れば、そんなに危険がともなわなければ気を使わなくてもいいと思う。

万が一忘れ物をしても、ご本人に対し家族がうまくフォローすればいい。

<事業所より>

以前、収集癖のあるご利用者が、使用済みのゴム手袋等をポケットやウエストの部分に挟み込み、持って帰ってしまうという事があった。ご家族にしてみれば、“なぜ職員はそれに気づかないのか？”という疑問を持ちご意見を頂いた。職員もしっかり見ているつもりでも、トイレの中など終始ずっと見ているわけではなく、ご利用者の尊厳等もある為、“全て見せてください”という事は出来ないが、ご家族の方、それぞれ考え方が異なるため、難しい部分でもある。

ディスカッション【地域との関わり方～地域密着型としてできる事～】

前回は“地域の拠点となるには”という事をテーマに行わせて頂いたが、みぎわホームデイサービスはどこにあるの？地域密着型って何？など、関りのない方、サービスを受けていない方など、地域密着型・認知症対応型デイサービスを知らない方も多くいらっしゃるというご意見を多く頂いた事もあり、まずは地域密着型のデイサービスがあるという所から、皆様にその存在を知っていただく為に、地域ではどのような活動を行っているのか、私達がどのような事に参加できるのかなど、ご意見やご助言を賜りたいと思っている。

<事業所より>

地域の関わり方について、一法人の一事業所が、地域に密着した事業を行っており、地域の方々、住民の拠点となるような大きな事はできないかもしれない。言葉で言う事は簡単だが、とても難しい課題である。小さな事からでも、地域に入っていくにはどのようにしたら良いのか。例えば“祭りに参加する”など、ご意見を頂きたい。

K 様(家族会代表)

今回の 19 号の台風で自身の住んでいる地域にも避難勧告が出たが、地域の便りなどに、みぎわでの受け入れ人数など出しているのか。

<事業所より>

水害に関しては、ハザードマップ上、みぎわホームは水没地域となる為、受け入れは難しいが、大震災などの場合は二次避難所として行政に登録している。
ご利用者の分、職員の分の備蓄(3 日分)はストックしている。

K 様(地域住民代表)

鶴舞会では楽しく元気に遊びましょうというのが会の目的にある。グランドゴルフを行ったり、カラオケ、吹矢、輪投げなどのクラブ活動も行っている。会員は 100 名ほどおり、現在介護を必要している人はいないが、80 歳を過ぎた方が多くなっているため、いづれ介護を必要とする時が来る。率直に言うと、みぎわホームがどういう介護をしているのか、もっと宣伝したら良いと思う。今の実態を見てもらい、こういう事になった時にはみぎわホームで受け入れて対応できますよという簡単なペーパーを作り、皆に配布してもいいのではないかと。今は必要としていなくても、今後、相談に行ってみようかなど、声が出るかもしれない。やはり関りがないとわからない事がある。

T 様(地域住民代表 T 様)

南町田自治会には自治会本体と自主防災組織、南町田福祉ネットワークの 3 本柱がある。自主防災組織は有事、災害が出た時の対応がメインとなっており、南町田福祉ネットワークは平時の活動がメインとなっている。例えば“ちょこっとお手伝い・ちょこっとカフェ・ちょこっとの時間・ちょこっとの遊び部屋”の 4 つのシリーズがある。

そういう活動を通じて、みぎわホーム(地域連携)にも参加してもらっているので、もっと積極的にみぎわホーム、事業所の PR を行っていけばいいのではないかな。

I 様(知見を有する者)

以前から地域貢献・地域密着として何かできる事はと言われているが、“陽だまり”という場所があるだけで地域貢献だと思う。その場所に毎日、週何回か通っているだけでご家族はとても助かっている。楽しそうに行って楽しそうに帰ってくる、今までずっと家にこもっていた方が徐々に明るくなる、行く事を楽しみにしている、そういう事を聞くだけで地域貢献になっていると感じる。これ以上何を求めるのか?と思う。

他の地域密着型の施設でも、どういう事をしていけば良いのかと悩んでいる所も多く、小さな事業所だと自分達の事だけで精いっぱいだと感じる。

N 様(町田社会福祉協議会職員)

先日、八王子まで災害ボランティアの手伝いに行き、そこは隣近所同士での助け合いが出来ている地域だと感じた。遠くから来る災害ボランティアの数が足りていない中、力を発揮したのが町内会や自主防災の方達だった。生活に関わる部分の泥の撤去を地元の人たちが力を合わせて行っており、凄いなと感じた。地域密着型ができる事として、まずはみぎわホームとして、目指している所は何なのか、困った時に何かみぎわホームとしてできる事があるのか、目標を達成する為に皆様に何をお願いしたいのか、事業所として何をやっていかなければならないのか。地域の方がいて成り立っているものであり、目指している所を明確にする事で、方向性が見えてくるのではないかな。

K 様(家族会代表)

PR 活動として、月に 1 回ご近所の方が来れる機会を作る。例えば手芸クラブで作成した物の展覧会を行えば手芸好きは集う。絵や書道でも良いと思う。人が集まるきっかけを作ってみてはどうか。

T 様(利用者の家族)

こうやって皆様の話を聞きとても参考になる。主人がデイサービスに通う際に忘れ物が無いように事前に準備をしている。同じように他にも悩んでいる方がたくさんいる。その人によって悩んでいる事も異なるが、こうやって自身や他の方の体験を話す機会がたくさんあればよいと思う。自分には関係のないような事でもすごく勉強になる。

もっと相談できるような場所があればいいと思う。

<事業所より>

“陽だまりが目指している所”という言葉がとても響いた。

目標が無ければ、その先に繋がって行かないと感じた。また、大きな所に手を伸ばし、それが実際に出来るのかと言うと、現状難しい部分もある。現在行っている家族会や地域の行事への参加などは今後も変わらずに続けて行き、また、現在関りの少ない所にも積極的に参加して行きたい。

皆さまから貴重なご意見を頂けた事に感謝致します。ありがとうございました。